デジタルアーカイブで妙見祭を未来へ

熊本県立第二高校

研究背景

私の住む八代市では毎年１１月２３日に妙見祭というお祭りがある。しかし、私が第二高校での妙見祭の認知度は想像以上に低く、県外ならともかく県内の人にすら知られていないことにとても驚いた。妙見祭をもっと沢山の人に知ってもらって盛り上げていき、妙見祭を後世に残していくために、この研究を行った。

デジタルアーカイブとは

博物館や美術館、図書館などの収蔵資料や有形無形文化財、自治体や企業の文書などをデジタル化することをデジタルアーカイブ化という。

デジタルアーカイブの利点の一つは紙媒体の文書と違い、紛失、劣化の可能性がなく、インターネット上で半永久的に保存が可能ということ。もう一つは映像、音声、画像、文章、図表など記録の形を選べるので、文字に表しづらいものをより適した方法で正確に残しておけるということだ。個人の経験で培われた技術や長年地域で受け継がれてきた行事など従来の方法での記録が難しいものの記録が可能になる。

また、デジタルアーカイブを作成し、インターネットに公開することで誰もが容易に情報の検索、参照、活用ができるようになり、研究や学習支援、防災、などに役立てることができるようになる。

地域のまつりの現状

2017年、日本経済新聞は無形民俗文化財の伝統行事が１年で20県60件が休廃止となったと報じている。主に若者の祭り離れ、人材、後継者不足の影響が大きいようだ。コロナの影響で近年は殆どの祭りが開催されていない。今年に入って再開され始めてはいるが、中には再開が危ぶまれている祭もある。

検証

添付している動画を参照。

考察

動画の情報量や画面の切り替え、間の長さなど、動画自体のみやすさにはかなりこだわって作った。妙見祭に関する情報はたくさんあったが、うまく選択してわかりやすく簡潔にまとめられたと思う。

しかし、デジタルアーカイブとしての視点から見たときに、情報の形態は本当にこれで良かったのか、という疑問は残る。今回はスライドのような形の動画だったが、音声や映像を使うとデジタルで残すことの利点を活かせるし、もっと伝わりやすかっただろう。紹介動画としてはいいものができたと思うが、後世の人がこの動画を見たときに役立てられるようなものかというと難しいだろう。

まとめ

実際に作ってみたことで色々改善点が見つかった。また制作する機会があれば今度は実際に祭りに行って音声や動画など様々な形でのデータを集め、記録性の高いものを作りたい。
今回の研究でデジタルアーカイブというものをしれてよかった。

これからの文化財保護において、そのものが持つ魅力を詳細に正確に残すことのできるデジタルアーカイブは重要な役割を果たしていくものになっていくだろう。